

# 那須与一伝承館通信〈第28回〉

## ○豊臣秀吉領知朱印状

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から豊臣秀吉領知朱印状を紹介いたします。本品は、天正十九年（一五九一）四月二十三日に豊臣秀吉（一五三七〜九八）が那須与一郎（資景、一五八六〜一六五六）に宛てた朱印状です。那須郡内で五〇〇〇石を与える旨が記されています。

資景はこの前年にも同じく那須郡内で五〇〇〇石を与えられており、あわせて一万石を領有することになりました。この結果、那須家は大名として復活を果たすことができたのです。

現在、本品を展示しております。ぜひこの機会にご覧ください。

## ○豊臣秀吉領知朱印状

下野國於那須庄内  
合五千石事、目録別紙  
有之、  
為加増令扶助之訖、  
全可領知候也、

天正十九  
四月廿三日 印  
那須与一郎とのへ



豊臣秀吉領知朱印状（那須家所蔵・当館寄託）

### 問

那須与一伝承館  
TEL (20) 02220

## 那須与一伝承館 休館のお知らせ

保存する貴重な資料を「ムシ」や「カビ」から守るため、館内の収蔵庫や展示室をくん蒸消毒します。

### ●休館期間

7月8日(月)〜12日(金)

### ●休館施設

那須与一伝承館全館  
(与一伝承館・竹のギャラリー・多目的ホール)

## 彫刻

### 市内で作られた作品とその作者

## 周遊 57

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

この作品は湯けむりふれあいの丘、前回紹介した作品から見て南西の方角にある植込みの中央に設置してあります。

巨大な白御影石を薄切りにして、『へ』の字型に組み、端を延長する形にもう一枚薄切りの石を組みました。その大きさは横幅約3メートル、奥行き約5メートルにもなります。

『へ』の字型に組んだ石の上には人型の彫刻を設置しました。体は白御影石、手足の先は黒御影石で作られています。その彫刻は『へ』の字型の石の上にあおむけに寝そべっているよう



## A Welcom Rest (心の休息)

ア ウェルカム レスト  
チョイ クムファ 2005年  
韓国

に見え、頭部は黒御影石で作られた帽子に完全に隠されています。

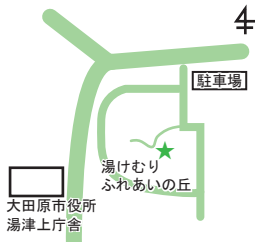
「この作品は、安息の地のない今日の世界をさまよう人々に、安らぎと癒しを与えたいという願いのもと制作しました」と作者は完成後に語っています。遠くから見ると誰かがひなたぼっこをしているのように見えるこの彫刻は、確かに人を、ちょっとほのぼのとした気分にしてくれるかもしれません。



チョイ クムファ氏

作者は韓国出身のチョイ・クムファ氏。弘益大学芸術学部彫刻科を卒業後、イタリア、フランス、日本、アフリカなど、数多くの彫刻シンポジウムに参加しています。

### 設置場所案内図(★印)



問 文化振興課 湯 TEL (98) 3768